

鹿児島大学大学院 理工学研究科

グローバル人材育成支援室

令和 1 年度活動報告書

Global Development Office

Annual Report 2019

令和 2 年 4 月 1 日

鹿児島大学大学院 理工学研究科

グローバル人材育成支援室

Global Development Office (GDO) ミッション: 鹿児島大学理工学研究科の学生と教員をグローバル人材にするための支援。

1. 海外研修の企画を運営する

2. 海外研修支援

理工学研究科の海外研修支援（準備など）

個人的な海外研修の相談（ビザ、生活など）

教員と学生係に留学生サポート

3. ランゲージサポート

英語学習サポート、英語ワークショップなど

理工系英語論文の校閲・発表支援

理工学研究科内の国際交流支援

GDO メンバー：

室長：新留 康郎 教授

副室長：木方 十根 教授

室員：Bo Causer 特任助教 ・ 成田 矩子 特任専門員

目次:

はじめに	p. 3
1 支援室活動内容	p. 4
2 支援室における会議実施状況	p. 5
3 2019 年度 事業費報告	p. 5
4 海外研修費用および参加学生のための支援金	p. 6
5 GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information	p. 7
6 新プログラム報告	p. 8
7 定期プログラム報告	p. 9
8 全プログラム事前準備報告	p. 10
9 全プログラム後活動報告	p. 11
10 グローバルプロフェッショナルウィーク 2019 開催	p. 12
11 2020 GOES プログラム開発	p. 14
12 2020 GOES プログラム募集活動	p. 16
13 English Language Support for Global Communication	p. 19
14 GOES 海外研修と TOEIC 報告	p. 21
15 室員感想文集	p. 23

はじめに

この冊子は鹿児島大学大学院理工学研究科グローバル人材育成支援室（以下、支援室）が令和元年度（平成 31 年度）に行った活動の報告です。本冊子が、大学として大学院生に提供するべきグローバル教育プログラムとは何か、また、鹿児島大学の大学院生・教員・職員がグローバル化のために学ぶべきことは何かを考えるきっかけになれば幸いです。

支援室は平成 26 年度に開設された設置準備室をもとに平成 27 年度より設置され、本年度で 5 年目にあたります。本年度の支援室は、グローバル化推進経費で雇用された特任助教(Bo Causer)と特任専門員(成田)の 2 名が実務の多くを担当し、副支援室長（年度当初 2 名、10 月から木方教授のみ）と支援室長（新留）で運営されました。本年度も、本間理工学研究科長に加え理工学研究科職員の皆様の協力をいただき円滑に業務を実施することができました。関係各位のご尽力に心より御礼を申し上げます。

本年度の「大学院理工系イノベーションプログラム海外研修」（以下、GOES プログラム）では合計 11 名の大学院生を豪州と米国に派遣しました。派遣にあたっては日本学生支援機構(JASSO)と鹿児島大学「進取の精神」支援基金から支援金をいただきました。支援金に関わる鹿児島大学グローバルセンターのご尽力に心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげさまで、本年度の GOES プログラムは準備・実施いずれの面でも大きなトラブルがなかったことを報告申し上げます。

海外研修から帰国した学生は英語口頭による発表会を行いました。特に、今年度は、鹿児島大学学長・理事への報告会も開催し、高い緊張感で英語報告を行うことができました。学生の報告書は「参加学生感想文集」に掲載されておりますので、本冊子と併せてご参照ください。10 週間の海外研修による学生諸君の能力の向上は目を見張るものがあります。GOES プログラムは、5 年間の試行錯誤を踏まえて、その質と量の両面で向上しつつあると確信しております。

支援室では 1 年を通して学生・教員・職員のグローバル化のための活動を行っております。「Workshop」は毎週複数回開催している英会話イベントであり、参加者のレベルに合わせた英語コミュニケーション力改善と異文化理解の機会として利用いただいています。また、大学祭前（11 月 11 日から 15 日）にはグローバルプロフェッショナルウィークと銘打って、留学説明会や海外経験者の講演会を集中的に開催しました。さらに、「トビタテ！留学 JAPAN」などの留学プログラムに参加を希望する学生への留学全般に関わる指導や、国際会議で講演を行う学生・教員への協力を随時行ってきました。

支援室は、海外研修に参加する学生のサポートだけではなく、鹿児島大学の学生にグローバル化：世界につながって日々の生活を営むということへの理解を深める機会を幅広く提供したいと考えています。支援室のより良い活動の為に今後一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月

理工学研究科グローバル人材育成支援室

室長 教授 新留 康郎

1 支援室活動内容

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・理工学研究科新 M1 全体/専攻別オリエンテーション参加、GOES2019 説明 ・GOES2019 説明会開催+募集（参加学生面接実施） ・GOES2019 事前準備会 ・海外研修航空券手配 ・グローバル月例会議 ・理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ（Q1 期） ・English Workshop 実施
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 事前準備会実施 ・海外研修支援金（本学ならびに JASSO）手続き ・海外研修保険手続き実施 ・学長向け支援室活動報告 ・グローバル月例会議 ・理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ（Q1 期） ・English Workshop 実施
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 事前準備会実施 ・海外研修参加者 TOEIC 実施 （Listening & Reading IP テスト） ・GOES2019 壮行会 ・GOES2019 サンディエゴ出発（6/28） ・グローバル月例会議 ・理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ（Q1 期） ・English Workshop 実施
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 パース出発（7/12） ・鹿児島大学進取の精神支援基金シンポジウム学生発表 ・English Workshop 実施
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 滞在中安否確認実施 ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 パース帰国（9/11） ・GOES2019 パース帰国（9/22） ・GOES2019 事後指導（課題等提出、英語プレゼンテーション説明） ・2020 年度海外留学支援制度・JASSO（協定派遣）プログラム申請 ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2019 事後指導 ・海外研修参加者 TOEIC 実施 （Listening & Reading + Speaking & Writing IP テスト） ・GOES2019 参加学生文集作成、配布 ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルプロフェッショナルウィーク+GOES2019 参加学生報告会開催 ・本学海外研修支援事業プログラム申請 ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2020 西オーストラリア大学とビデオ会議 ・GOES2020 広報開始 ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2020 説明会開催 (3回) ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・GOES2020 説明会開催 (2回) + 募集 (参加学生面接実施) ・English Workshop 実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル月例会議実施 ・English Workshop 実施

2 支援室における会議実施状況

業務の円滑な進行と適切な運営のため、以下2種類の会議を実施した。

1. グローバル人材育成支援室月例会議

主席者：室長、副室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、事業実施における重要事項の議論・確認

開催日時：4/22, 5/27, 6/24, 8/2, 9/2, 10/15, 11/27, 12/25, 1/30, 3/26

2. グローバル人材育成支援室定例会議

出席者：室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、イベント実施計画や学生募集の戦略について討議

開催回数：36回

3 2019年度 事業費報告

主な費目	予算金額	決済金額
消耗品・備品費	550,000	729,948
研修プログラム実施経費	300,000	209,075
シンポジウム実施費	100,000	68,740
広報・印刷費	440,000	580,234
事業報告費	100,000	95,150
プログラム開発費・予備費	193,147	0
総額	1,683,147	1,683,147

4 海外研修費用および参加学生のための支援金

2019 年度海外研修 GOES プログラムの研修費用と参加学生対象の支援金は次の通りである。

1. 海外研修費用

① サンディエゴ研修

語学学校授業料（諸経費込み）	245,300 円
ホームステイ費用	293,015 円
渡航費	132,040 円
入国ビザ申請費	17,600 円
海外旅行傷害保険	21,760 円
合計	709,715 円

② パース研修

語学学校授業料（諸経費込み）	378,750 円
ホームステイ費用	242,250 円
渡航費（国内移動交通費込み）	199,846 円
入国ビザ申請費	3,240 円
海外旅行傷害保険	21,760 円
合計	845,846 円

2. 支援金

支援金は以下について申請し次の通り承認された。条件を満たした学生が支援金を利用した。

① 鹿児島大学学生海外研修支援事業（タイプ B）

- ・ 授業科目名：理工系国際コミュニケーション海外研修
- ・ 採択支援学生数：15 名
- ・ 受給人数：11 名
- ・ 一人あたり受給金額：271,760 円（サンディエゴ研修）
251,760 円（パース研修）

② 独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣タイプ B）

- ・ プログラム名：大学院理工系イノベーション海外研修プログラム
- ・ 奨学金支給割当人数：15 名
- ・ 受給人数：8 名
- ・ 一人あたり受給金額：70,000 円×3 カ月=210,000 円（パース研修）

なお、2019 年度は②の支援対象を理工系大学院生と申請していたため対象を外れた人文社会科学研究科所属学生 1 名に対し、鹿児島大学より支援を得た。

受給金額：56,000 円×3 カ月 = 168,000 円

5 GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information

	研修先	専攻	進路
2015年度参加			
1	サンノゼ	機械工学	三浦工業株式会社
2		化学生命・化学工学	栗田工業株式会社
3		情報システム工学	ヤフー株式会社
4		情報システム工学	双日株式会社
5	サンディエゴ	情報システム工学	株式会社村田製作所
6		建築学	株式会社アール・アイ・イー
7		建築学	株式会社スペース
8		建築学	大和ハウス工業株式会社
9		生命化学	グローバル・ウェーブズジャパン株式会社
10	サンディエゴ・サンノゼ	機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
12		情報システム工学	三菱自動車工業株式会社
13		物理・宇宙	新日鐵住金株式会社
2016年度参加			
1	サンディエゴ・サンノゼ	化学生命・化学工学	東レエンジニアリング株式会社
2		海洋土木工学	JX金属株式会社
3		海洋土木工学	株式会社建設技術研究所
4		生命化学	株式会社リニカル
5		生命化学	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
6		生命化学	池田糖化工業株式会社
7		機械工学	大分キヤノン株式会社
8		機械工学	日産車体株式会社
9	サンディエゴ	地球環境科学	NECソリューションイノベーター株式会社
10		海洋土木工学	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
11		建築学	株式会社大林組
12	ニューヨーク	機械工学	株式会社ATOUN
13		機械工学	NOK株式会社
14		建築学	株式会社日建設計
15	ノースダコタ	建築学	株式会社南日本放送
16		化学生命・化学工学	株式会社日本触媒
2017年度参加			
1	サンディエゴ	建築学	N/A
2		建築学	株式会社JFC設計
3		生命化学	一般財団法人カケンテストセンター
4		機械工学	株式会社牧野フライス製作所
5		機械工学	ファナック株式会社
6		機械工学	N/A
7		化学生命・化学工学	明成化学工業株式会社
8		物理・宇宙	株式会社キーエンス
9	ニューヨーク	化学生命・化学工学	三井化学株式会社
10	サンノゼ	機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	ヤンマーホールディングス株式会社
2018年度参加			
1	サンディエゴ	機械工学	鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程
2		化学生命・化学工学	大正製薬株式会社
3		化学生命・化学工学	住友電気工業株式会社
4		物理・宇宙	株式会社キーエンス
5		物理・宇宙	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
6	オーストラリア・パース	物理・宇宙	進学準備中
7	ハワイ	電子電気工学	キヤノンメディカルシステムズ株式会社

6 新プログラム報告

パス（オーストラリア・西オーストラリア大学）：参加学生 10 名

期間：10 週間

令和 1 年度から、G O E S 海外研修新プログラムを行なった。新プログラムは西オーストラリア大学英語教育センター（C E L T）と実施した。プログラム内容は下記の通り：

UWA/CELT Schedule	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1st Class 8:30 - 10:30 am	語学学校	語学学校	語学学校	語学学校	語学学校
Break (15 min.)					
2nd Class 10:45 am - 12:45pm	語学学校	語学学校	語学学校	語学学校	語学学校
Lunch (1 hour)					
Afternoon Program (1:45pm - 4:45 pm)	Free Time	批判的思考と豪州文化 授業 UWAの授業に参加	UWA Guild 人材ボランティア活動	UWA学生組織が用意するワークショップ 革新的技術開発プロジェクト	Free Time

ホームステイ：C E L T と連携するホームステイ会社を利用した。選りすぐったホストファミリーと学生のマッチングを行なった。学生は 10 週間ホストファミリーの家に滞在した；朝食・夕食は料金に含まれていた。

改善点：なし

語学学校：出発前に、学生は CELT の英語レベルテストを受け、語学学校で適切なレベルの授業に入學した。前半終了後（5 週間）、再度クラス分けがあり上のレベルに移動する可能性があった。

改善点：なし

C E L T カスタムプログラム：

1. 批判的思考と豪州文化 授業：鹿児島大学院生のみ
2. UWA の授業に参加：興味のある大学授業を現地学生とともに聴講。
3. UWA Guild 人材ボランティア活動
4. UWA 学生組織が用意するワークショップ
5. 革新的技術開発プロジェクト

改善点：

1. なし
2. C E L T から U W A 本キャンパス間は距離があり、授業に間に合わない。令和 2 年度は、C E L T にスケジュールリングを改めてもらう。
3. UWA Guild 人材ボランティア活動は事前の情報不足により取り消しになった。代わりに、参加学生は 2 人・または 3 人のグループで、地域貢献活動プロジェクトを行なった。パスの 3 つの場所を選び、見学、調査、日本との比較を行った。令和 2 年度は、この部分を改良する。
4. なし

5. 講師と学生の関係は良好だったが、参加学生はこれまでの経験から講師へ学びたい内容を自ら伝える必要性に気が付かなかったため結果的にプログラムに満足することができなかった。講師側も学生たちの関心を引き出すことができず、満足のいく講義ができなかったと評価している。プログラム後、支援室と CELT 合同で令和 2 年度の実施に向けて振り返りを行った。研修では自分が講義で何を得たいかを伝える必要があると参加学生に学ばせること、また CELT と協力しより適切な講義内容を設定することに努める。

参加学生の声：スピーキングアクティビティが多くあり、スピーキング能力の向上に役立った。/自分に合ったレベルの授業を受けることができ、テストもあったのでメリハリをつけて勉強に取り組むことができた。/日本以外の国出身の人が多く、様々な文化を持った人と接する事がたくさんあった。/後半、日本人が多くなった。/オーストラリア文化に触れられる企画があり、楽しめた。/自由参加のレクリエーションが充実していた。/ホストファミリーはとても優しく親切で話しやすかった。/私の語学能力の向上のきっかけとなったのはホストファミリーとの会話が大きい。

7 定期プログラム報告

サンディエゴ (カリフォルニア州、サンディエゴ州立大学) : 参加学生 1 名

期間	受入先
7月1日～8月8日 (6週間)	サンディエゴ州立大学 ALI 語学学校
8月12日～9月6日 (4週間)	RH Fleet 科学館 ボランティア

ホームステイ：令和 1 年度からは、昨年度まで利用していた ALI 語学学校のホームステイが廃止されたため、新規の会社を利用することにした。新しい会社は「Student Link International」であり、コストとスタッフの質は満足できるものだった。

改善点：なし

語学学校：サンディエゴ州立大学附属語学学校 American Language Institute (ALI) ; 期間は 6 週間

改善点：なし

R.H. Fleet 科学館ボランティア：「スタジオ X」の利用者へ教育を行う。

改善点：なし

その他：

1. サンディエゴ州立大学工学プログラムは最小限の参加学生数を満たさず実施しなかった。
2. 鹿児島大学友好大使である森氏に学生の移動と危機管理の支援を受けた。

改善点：なし

参加学生の声：ディスカッションやプレゼンテーションをする時間が多く、他国の人との交流を通して、教室内でアメリカだけでなく多くの国の異文化を知ることができた。日本人は文法ができるため上のクラスに入りやすいが、積極性の点で厳しいと感じた。科学館の活動では公共施設で働くという

経験を得られ、来場者の発想力、創造性に驚かされることもあった。研修費用は高いがそれだけの経験ができたと自信をもっていうことができ、今後の人生を考えるきっかけになった。

ニューヨーク（ニューヨーク州、州立ニューヨーク・シティ大学）：参加学生無し

8 全プログラム事前準備報告

1. 事前準備会：

2019年度 大学院理工系イノベーション海外研修 GOES2019・準備会実績

4月							5月							6月							7月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30	22	23	24	25	26	27	28		
29	30																			29	30	31					

回	日付	内容	手続き・説明
1	4/24	Transportation, Time, How to say "No"	準備リスト・健康申告書配布
2	5/15	Self-introductions & asking for what you need	ホームステイ・CELT・鹿大支援金申込手続き
3	5/22	Making friends, Shopping Homestay	誓約書配布/ETAS・航空券申込書記載と回収
4	5/29	Health	「保険会社説明会」(ポラリス)/学研災証回収
5	6/5	Safety, knowing your environment	安否確認システム説明/海外保険証書配布
	6/12	TOEIC IP	
6-1	6/19	Orientation - San Diego	しおり配布(最終確認)
7	6/20	壮行会 (2018GOES学生からアドバイス)	
8	6/26	Homework (TOEIC, Presentations, Blogs)	パース費用説明
6-2	7/10	Orientation - Perth	しおり配布(最終確認)

2. 手続き :

	準備	期日	担当
渡航関係	全 <パスポート未取得者>申請・受領	直ちに	グローバル人材育成支援室
	全 パスポート顔写真ページコピー提出		
	全 日本学生支援機構 (JASSO)奨学金受給手続き	4月20日 (金)	大学院係
	米 アメリカ合衆国渡航用学生ビザ申請書類作成・提出	4月25日 (水)	大学生協
	米 在福岡アメリカ領事館での学生ビザ面接	5月30日 (水) 午前中	
	全 学研災 (学生教育災害傷害保険) 加入	5月2日 (水)	グローバル人材育成支援室
研修関係	全 海外旅行傷害保険 申込手続き・加入証明書提出	5月下旬	
	米 サンディエゴ州立大学附属語学学校入学手続き	4月中旬	グローバル人材育成支援室
	全 ホームステイ滞在先手続き	4月中旬	
	全 TOEIC IPテスト実施	1Q終了直後	
	全 海外研修参加にかかる誓約書提出	5月下旬~6月上旬	
	全 健康状態申告書提出	6月上旬	
	全 研修出発前オリエンテーション	6月中旬	
	全 海外研修費用支払 (ホームステイ代、旅費、授業料など)	5月下旬~6月上旬	大学生協より連絡

3. 危機管理 : 鹿児島大学の海外留学危機管理規則にのっとり、各種保険と安否確認システムの登録を行った。支援室・大学事務・指導教員を含めた連絡網も作成しており、必要な際に備えている。学生には事前準備会で海外での安全な滞在に必要な知識を伝えている。また滞在中は毎週月曜日にオンライン (LINE) で安否確認を実施し、教員と職員にも最新の情報を共有している。2019年度は研修実施にあたり大きなトラブルはなく、保険請求の発生もなかった。

9 全プログラム後活動報告

1. 国際コミュニケーション海外研修科目の評価 :

国際コミュニケーション海外研修科目の成績評価は、次の3つの観点から行った。

- ① レポート : 学生は研修中、Wordpress のブログを執筆した。ブログの投稿数、記事の長さ、英語能力と説明の明確さを評価した。35点満点とし、平均点は32点だった。
- ② 英語発表 : 学生は帰国1ヶ月後に、研修経験の発表を行った。評価は、発声の適切さ、英語能力と説明の明確さによって行った。35点満点とし、平均点は31点だった。
- ③ TOEIC : 研修前・研修後に、TOEIC 試験を行った。この二つの点数を比較し、点数増加率を見た。30点満点とし、平均点は27点だった。(詳しい説明は「TOEIC」章にある。)

2. 学長向け報告会 :

10月30日 (水)、研修の成果を学生から直接お伝えたく学長、教育担当理事、研究・国際担当理事に向けた帰国後報告会を実施した。参加学生11名がひとり3分間のプレゼンテーションと質疑応答を英語で実施した。

3. Global Professional Week 発表・交流会 :

11月13日 (水)、支援室が主催するグローバルプロフェッショナルウィーク (別項に詳述) にて海外研修参加者報告会を実施した。発表時間はひとり10分間で、形式は自由としたが全員が英語でのプレゼンテーションをこなした。次年度以降の参加を計画している下級生も参加し、発表会後に行った交流会では、留學生活について助言を与える様子がみられた。

10 グローバルプロフェッショナルウィーク 2019 開催

学生たちに将来グローバル人材として自信をもって活躍してもらうため、また当支援室の活動について知ってもらうために各種イベントを開催する「グローバルプロフェッショナルウィーク」を実施した。期間は11月11日（月）から15日（金）の1週間で、10種類のイベントを企画した。

過年度は参加者の少なさが反省となっていた。そのため、今回は開催1か月前より広報を実施した。学内各所へのポスター掲示、WebサイトとTwitterでの告知、理工学研究科学生へのメール連絡に加えて、理工学研究科の各研究室へ人数分のチラシの配布も行った。この結果、すべてのイベントの総参加者数は102名と昨年度比大幅に増加した。今後も週間イベントとして例年学祭時期に実施することを通例化し、イベントの認知度をあげ参加者数を増やしていきたい。

イベントの実施内容は、以下案内の通りだが最も参加者数が多かったのは最終日の「就職活動サポート講演会」である。本講演会には、学外より企業でグローバル人材として活躍されている現役社員の方と就職情報誌のグローバル人材担当者をゲストスピーカーにお招きした。

「グローバル人材になる」とは、1度の経験によって成長することや短期間で実現されることではない。時間をかけて達成されるものであろう。このとき、既にグローバル人材として活躍する各業界の方から経験談を聞くことは学生にとって有用であると考えられる。今回は、理工学研究科の学生が卒業後のキャリアをイメージしやすい内容でゲストスピーカーにご講演いただいた。過去のGOES参加者には、卒業後に支援室を訪ねてくれるものもいる。今後はこのような講演会に、学生たちの直接の先輩である卒業生にも登壇いただきたい。



Global Professional Week 2019 参加自由

11月11日（月）～ 11月15日（金）

時間	11月11日（月）	11月12日（火）	11月13日（水）	11月14日（木）	11月15日（金）
10:30-11:30	GOES 海外研修説明会 工学系講義棟 123 講義室	研究インターンシップ説明会 工学部共通棟 101 講義室		国際学会英語発表方法ワークショップ 工学部共通棟 305 講義室	
13:00-14:00	国際学会英語発表方法ワークショップ 工学系講義棟 123 講義室	グローバル人材の自信をつけよう！ ワークショップ 工学部共通棟 101 講義室	GOES 海外研修参加者報告会 工学部建築学科 1号館 Lecture Room	理工系はなぜグローバルになるべきか？ ディスカッション② 工学部共通棟 305 講義室	就職活動サポート講演会 「海外経験を就職・仕事に生かす！」 工学部稲盛会館
14:30-15:30	理工系はなぜグローバルになるべきか？ ディスカッション① 工学系講義棟 123 講義室	Triad 世界展開力プログラム 学生発表 工学部共通棟 101 講義室		GOES 海外研修説明会 工学部共通棟 305 講義室	
16:10-17:00	海外研修個別カウンセリング グローバル人材育成支援室	海外研修個別カウンセリング グローバル人材育成支援室	GOES 参加者と交流会 工学部建築学科 1号館 Lecture Room	海外研修個別カウンセリング グローバル人材育成支援室	

鹿児島大学大学院理工学研究科・グローバル人材育成支援室：globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp 099-285-3060
詳しい情報はウェブをご覧ください：http://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp

就職活動サポート講演会



11月15日（金）稲盛会館 どなたでも参加自由

13:00 開講		
企業	講演者	テーマ
株式会社マイナビ 13:05~13:50 (45分)	グローバルキャリアサポーター 林 香織氏	留学と就職~理系学生の留学 経験を生かした就活方法~
富士ゼロックス株式会社 13:50~14:20 (30分)	人事部 平井 裕之氏	学生時代に経験して欲しいこと
味の素株式会社 14:20~14:50 (30分)	バイオ・ファイン研究所 山田 慧氏	味の素会社紹介 & 海外経験の活かし方
質疑応答 (20分)		
閉会后、ロビーにて交流の時間を設けます。		



鹿児島大学大学院理工学研究科

グローバル人材育成支援室: globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp 099-285-3060

詳しい情報はウェブをご覧ください: <http://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp>

11 2020 GOES プログラム開発

パース (オーストラリア・西オーストラリア大学)

2019 パース GOES を振り返り、西オーストラリア大学 CELT のプログラムコーディネーターへ次のような案を提案した。議論の結果、プログラム時期は未定だが、学生への案内は下記の通り行った。

Suggestion for SDG-themed project Kagoshima GOES 2020

We propose slight changes to the following (yellow) areas of the 2019 study tour plan:

		Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Sat/Sun
Term 5 (6?) Weeks 1 - 5	am	CELT General English classes					Day off
	pm	Free time/CELT regular elective activities	Australian culture classes/ Lecture audits	Field work/ research for independent project ²	Student society workshops/SDG class ¹	Free time/CELT regular elective activities	
Gap Week (?)		Work on independent project					Day off
Term 6 (7?) Weeks 7 - 11	am	CELT General English classes					Day off
	pm	Free time/CELT regular elective activities	Australian culture classes/ Lecture Audits	Field work/ research for independent project ²	Student society workshops/SDG class ¹	Free time/CELT regular elective activities	

1. SDG class: Discussion & debate centered around SDG's, follow-up on independent research projects with opportunities for mini-presentations & feedback on presentation skills. *This class would replace the 'Innovation Project' class.*

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



2. Independent project: Prior to arriving at CELT, students will have developed a plan for an independent research project. This project will be related to their area of research as graduate students at KU, and will be themed around the SDGs. The aim is for students to investigate how the issue they have chosen to research is addressed in an Australian context.

For example:

Student of...	Research	SDG	Pre-arrival work	Research question	Perth-based work	Outcome
Biochemical Engineering	Use of nano-particles to filter oils out of water	#6 Clean Water & Sanitation	Investigate how SDG #6 is addressed in Kagoshima.	What is common water pollution in Perth? How is pollution controlled?	Visit river parks, ask locals about attitudes to pollution, interview water sanitation expert.	Blog* & Presentation/ video**
Architecture	Wood construction	#11 Sustainable Cities & Communities	Investigate how SDG #11 is addressed in Kagoshima.	How does wood construction contribute to sustainability in Perth?	Visit & observe buildings in Perth, visit urban design office	Blog* & Presentation/ video**
Agriculture	Food safety for wagyu beef	#2 Zero Hunger, #3 Good Health & Wellbeing	Investigate how SDGs #2,3 are addressed in Kagoshima.	What meats are popular in Perth diets? How does meat reach supermarkets?	Visit & observe supermarkets, interview food safety expert.	Blog* & Presentation/ video**

*We would give support to the student through their weekly research blog.

** Ideally, the students could give a presentation in their final week in Perth, either at CELT, or if at all possible, to a group in the community, or at a local high school etc.

Further Notes:

- Depending on the group, students from the same department or interested in the same SDGs may work in pairs or small groups.
- In the first or second week, it might be an idea for students to give a presentation on their research topic and what they learned about it in relation to Kagoshima/Japan. This could be to just the CELT instructor, or it could be opened for observation by other CELT students

サンディエゴ (カリフォルニア州、サンディエゴ州立大学)

2019年度はサンディエゴ州立大学工学プログラムの最小催行人数を満たせず実施しなかったが、2020年度は参加人数の下限設定が撤廃された。

(案)

期間	受入先
6月29日～8月6日 (6週間)	サンディエゴ州立大学 ALI 語学学校
8月10日～8月27日 (2週間)	サンディエゴ州立大学 工学系プログラム
8月31日～9月11日 (4週間)	RH Fleet 科学館 ボランティア

ニューヨーク（ニューヨーク州、州立ニューヨーク・シティ大学）

熱系・電池系を専門とする学生から参加希望があれば実施する。

2020 ニューヨーク GOES 研修は下記の通り。（案）

期間	受入先
6月29日～7月31日（5週間）	午前：州立ニューヨーク・シティ大学語学学校 午後：州立ニューヨーク・シティ大学 エネルギー研究室
8月3日～9月4日（5週間）	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究室 （熱系・電池専門）

12 2020 GOES プログラム募集活動

募集活動の日程表は下記の通り：

年	月	活動	記	他
令和1年	10月	プログラム後アンケート	参加学生から、意見、感想を集める。その結果、プログラム改善を目論む。	
		感想文集	参加学生のブログから、感想文集を作る。	
		グローバルプロフェッショナルウィーク	「グローバルプロフェッショナルウィーク2019 開催」章を見てください。	感想文集と前年度のパンフレットを参加者に配布する。
	11月	プログラムの改善	プログラム関係友好大使大学に連絡、翌年度のプログラム案内計画を始める。	
		パンフレット	プログラム募集のパンフレットを作る。	配る
	12月	説明会	冬休み前に、GOES 海外研修説明会を行う。	申し込む準備
ウェブ・SNS		プログラム応募方法をホームページ、ツイッター、フェイスブックに配る	募集メールを流す	
令和2年	1月	募集イベント	キャンパスの弁当売場の近くで、パンフレットを学生の手配に配布する。（工学部前、理学部前、農学部前）	募集メールを流す
		説明会	GOES 海外研修説明会を3回行う。	申込書を配る
	2月	説明会	GOES 海外研修説明会を2回行う。	募集メールを流す
		面接	GOES 海外研修参加希望学生の面接を行う。	
	3月	オリエンテーション準備	4月大学院入学オリエンテーションのGOES 海外研修説明会を準備する。（PRビデオ；感想文集、パンフレット、申込書、説明書；スライド など。）	
		プログラム開発	プログラム案内計画を確認する。	
	4月	オリエンテーション	大学院入学オリエンテーションのGOES 海外研修説明会を行う。	参加学生が少ない場合には、特別募集活動を行う。
		面接	GOES 海外研修参加希望学生の面接を行う。	
5月	募集締切	ゴールデンウィーク前に、参加学生の手続きを完了する。		

募集パンフレット、ポスター など

GOES 2020 大学院
 鹿児島大学 大学院理工学研究科 海外研修プログラム



理工系語学研修
PERTH

西オーストラリア大学 CELT



科学教育研修
SAN DIEGO

サンディエゴ州立大学 ALI



ラボ研修
NEW YORK

州立ニューヨーク・シティ大学

★ 大学院 M1 M2 D1 ★
 ★ 理工学研究科学生に限らず ★
 ★ 全研究科から履修可能です。 ★

*** 支援金制度があります！**

研修にかかる渡航費・授業料支援、奨学金を利用できます。
46.2万円～52.8万円の支給実績があります。
 利用には成績等の条件がありますので、支援室までご相談ください。

研修費用、支援金は、参考金額です。参加総人数、為替レートなどによって実際の金額は変動しますので、ご了承ください。金額が確定次第、改めてご案内いたします。

4単位を取得できます！

理工系国際コミュニケーション海外研修科目に登録が必要です。

成績の評価基準

- ① 研修前 TOEIC ・ 研修後 TOEIC (GDO が手配します。)
- ② レポート (GDO が書く方法を指定します。)
- ③ 英語発表 (GDO が発表方法を指定します。)

他

- ・ 研修前に、「事前準備会」を行います。参加をおすすめします。
- ・ 研修後に、「Global Professional Week」にて研修経験発表を行います。

**理工学研究科以外の学生は自分の研究科で取得できる単位数を確認してください。

参加方法

理工学研究科
 グローバル人材育成支援室
 (GDO)
 海外研修カウンセリング

申し込む

研修参加
 前の面接

海外研修
 に参加

PERTH 理工系語学研修 西オーストラリア大学 CELT

	月	火	水	木	金	土・日	費用
午前	西オーストラリア大学 CELT 語学学校						航空券 ホームステイ 授業料 ～ 84.6万円*
午後	選択	文化 授業 ・ 体験 講演	地域 調査 活動	学生 交流 ・ 理工 調査	選択	休み	
6月上旬 ～ 8月中旬 11週間							

SAN DIEGO 科学教育研修 サンディエゴ州立大学

	月	火	水	木	金	土・日	費用
6週間 ～ 9月中旬 10週間	サンディエゴ州立大学 ALI 語学学校					休み	航空券 ホームステイ 授業料 ～ 71.0万円*

NEW YORK ラボ研修 州立ニューヨーク・シティ大学

	月	火	水	木	金	土・日	費用
5週間 ～ 9月中旬 10週間	午前：州立ニューヨーク・シティ大学語学学校 午後：州立ニューヨーク・シティ大学 エネルギー研究室					休み	航空券 寮 授業料 ～ 82.6万円*

*右のページをご覧ください。

GOES プログラム参加学生の声：

八木 日出美 建築専攻 GOES 2015, San Diego

海外で、私が話した多くの人が、目標や夢を持っていた。自分の仕事、卒業後の進路といったキャリアや、家族のために必死に勉強する姿がとても衝撃で、私の勉強や研究へのモチベーションを高めることになりました。

Kuroda Kosuke 機械専攻 GOES 2016, New York

GOES プログラムに興味を持ったことをきっかけとして今回の機会を得られ、研修期間中も生徒同士の意見が常に飛び交う語学学校の授業や、研究インターンシップで研究生との積極的なコミュニケーションによって課題を解決できた経験などから、私は海外研修を通して自分から働く事の大切さを実感しました。

折尾 彩 化学生命・化学工学専攻 GOES 2017, San Diego・San Jose

研修を受けた後の自分は価値観が変わり、寛大になれた気がします。海外での研修中は、問題を自ら解決しなければならぬので、自分で行動する力や、慣れない環境を打破する能力を培うことができました。

白濱 透 物理宇宙専攻 GOES 2018, San Diego

私は英語の発音はおろか、話すこともほとんどできませんでしたが、今回の研修でたくさんの人と出会い、ほとんどできない状態から、難しいがやればできる状態になりました。もう一度行きたいくらいです。


脇 海晟 情報生体専攻 GOES 2019, Perth

自分のホームステイ先は手厚く面倒を見てくれ、衝突することはあってもそのおかげで仲良くなりました。ホームステイファミリーとたくさん英語を喋ったので英語力の向上につながったと思います。日本には学べない価値観や、英語の必要性などを楽しく学ぶことができたので、他の学生にはぜひ動きたいと思っています。


鹿児島大学大学院理工学研究科グローバル人材育成支援室
 globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp 099-285-3060
 http://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp



Where will you go?




PERTH



SAN DIEGO

NEW YORK



Everyone GOES somewhere!
Graduate Overseas Engineering & Science Study
 鹿兒島大学 大学院理工学研究科
 GOES 理工系海外研修

★ Graduate School of Science & Engineering ★ Graduate Overseas Experiential Studies Program ★ (GOES) Open Course for ALL M1 M2 D1 Students

10 weeks at University of Western Australia (UWA) in Perth, Australia



AM: UWA Center for English Language Training (CELT) English lessons: 7 levels, 10-15 students per class, mixed ages & nationalities.
PM: Alternating trial lessons, culture classes, student-led workshops, optional activities etc.
Accommodation: Homestay (breakfast & dinner included, certified families)

Earn up to 4 credits!*

(*Faculty of Science & Engineering; other Faculties may differ.)
Sign up for: 理工系国際工科大学海外研修科目 course.

Course will be assessed on the following:

1. Pre-departure and post-program TOEIC scores (students enrolled in this course take TOEIC twice at no cost).
2. English Report (Weekly blog entries or other digital shareable diary.)
3. English Presentation (After returning from the program)

Other components include:

- Weekly pre-departure coaching sessions (optional but highly recommended)
- Presentation for fellow students during Global Professional Week.



Cost & Scholarship:

Cost for the Perth GOES Program includes: Airfare, homestay fees, language school tuition, program fee, mandatory insurance. The estimated cost of ¥846,000 is based on last year's cost and may differ in 2020.
 Partial scholarship may be available to students who meet the qualifying criteria. In addition, similar programs are available in San Diego and New York. **Please visit us for details.**

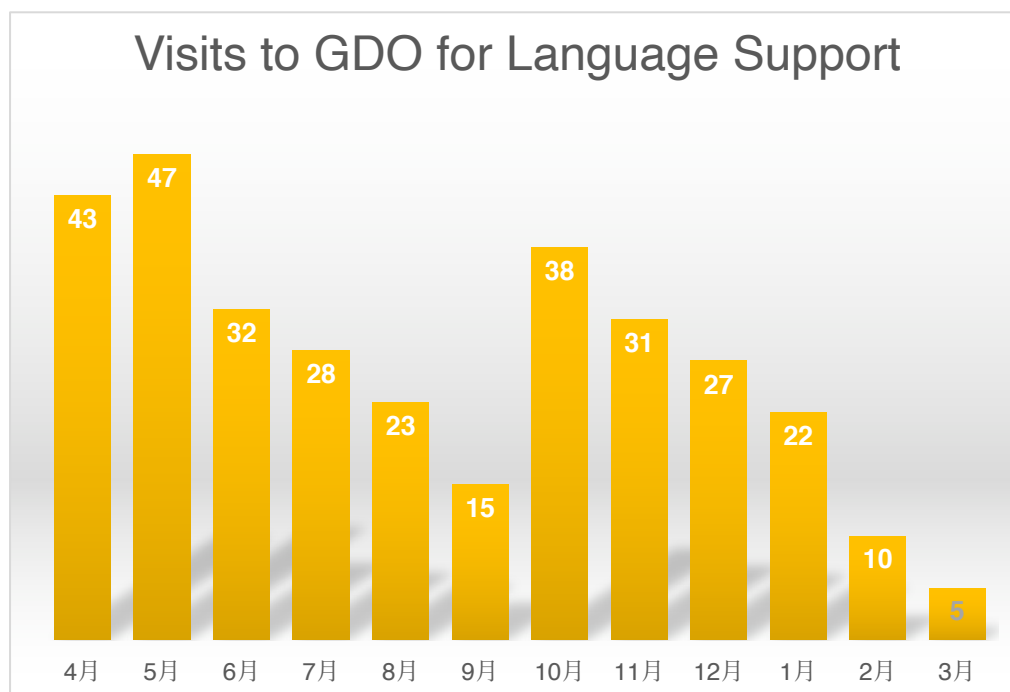
We are:

Graduate School of Science & Engineering *Global Development Office (1F Architecture Building)
globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp
 099-285-3060



13 English Language Support for Global Communication

The chart below shows the number of visits by students and staff for English language support (projection for March based on previous years' data). Data on the reason for each visit was not collected, however visitors mainly came to participate in English Workshops, for counseling, or for academic research support. These activities are described below.



GDO Language Support Activity

1. English Workshops

Regular English Workshops for students were held 3 times a week throughout the year: Tuesday lunchtime (free chat), Wednesday from 4:00pm (student-centered discussion or communication games), and Friday 11:00am (GDO custom textbook). Between 2 – 4 students participated in these workshops, although attendance was more regular at the beginning of term, and dropped off as students reached end-of-term academic deadlines. Students did not participate during school holiday periods, although the option to do so was available.

Additionally, Test Workshop for students wishing to focus on TOEFL or IELTS preparation was offered on Thursday afternoons. One to two students attended regularly in first semester, but there were no participants in second semester. Two M1 physics students arranged to have their own conversation workshops, and these workshops were held three times a week for two months in the first semester.

Three English Workshops for staff were also on offer. Advanced workshops for technical staff met weekly on a regular basis throughout the year. Workshops involved discussion based on texts selected and read by workshop participants. A beginner class for technical staff was also arranged, however due to scheduling difficulties and work responsibilities, the workshops were only held sporadically. These workshops used the GDO custom textbook. Finally, two professors came weekly, with a third joining occasionally. These workshops focused on participant-lead discussion.

Workshops were advertised on the GDO website, and via posters put up on both Science and Engineering bulletin boards, and distributed to each department.

Let's speak English!

YES!

毎週の英語

Tuesday Lunchtime English Chat (12:00 - 12:45)

Wednesday Workshop (16:15 - 17:00)

Thursday Test Practice (14:30 - 15:30)

Friday Workshop (11:00 - 12:00)

*申し込み事がありません。
自由で参加して下さい。
他の時間・他のワークショップ
を希望する場合には、
ポツ先生に連絡して下さい。
beauser@gm.kagoshima-u.ac.jp

2. Academic/research support

GDO supported academic and research activity in the following ways:

- Proofreading academic papers (students/faculty)
- Supporting conference presentations: slide design/language check; recording presentation scripts for pronunciation support; giving feedback on presentation skills (students only)
- Support with English-language administrative documents and communications (students, faculty, administrative staff)
- Began development of 'International Conference Handbook' to help first-time presenters understand how to get the most out of their conference experience.

3. Counseling

GDO provided counseling to students planning their study abroad programs, regardless of whether or not they were participating in a GOES overseas study program. This included advice on destinations, visa issues, funding applications, and cultural norms, and how to negotiate these in English.

Additionally, GDO provided counseling on independent English study, for those students unable to join the English workshops.

These activities were promoted via the GDO website, and posters distributed to each department in the Graduate School of Science and Engineering (see example below).

Credit courses

Global Development Office staff (特任助教) was responsible for the implementation and evaluation of the course 「国際コミュニケーション海外研修科目」, for the design, implementation and evaluation of the course 「理工系グローバル人材育成の為のアカデミック・イングリッシュ科目」, and by special request, designed the content for and conducted 「機械英語Ⅱ」.

14 GOES 海外研修と TOEIC 報告

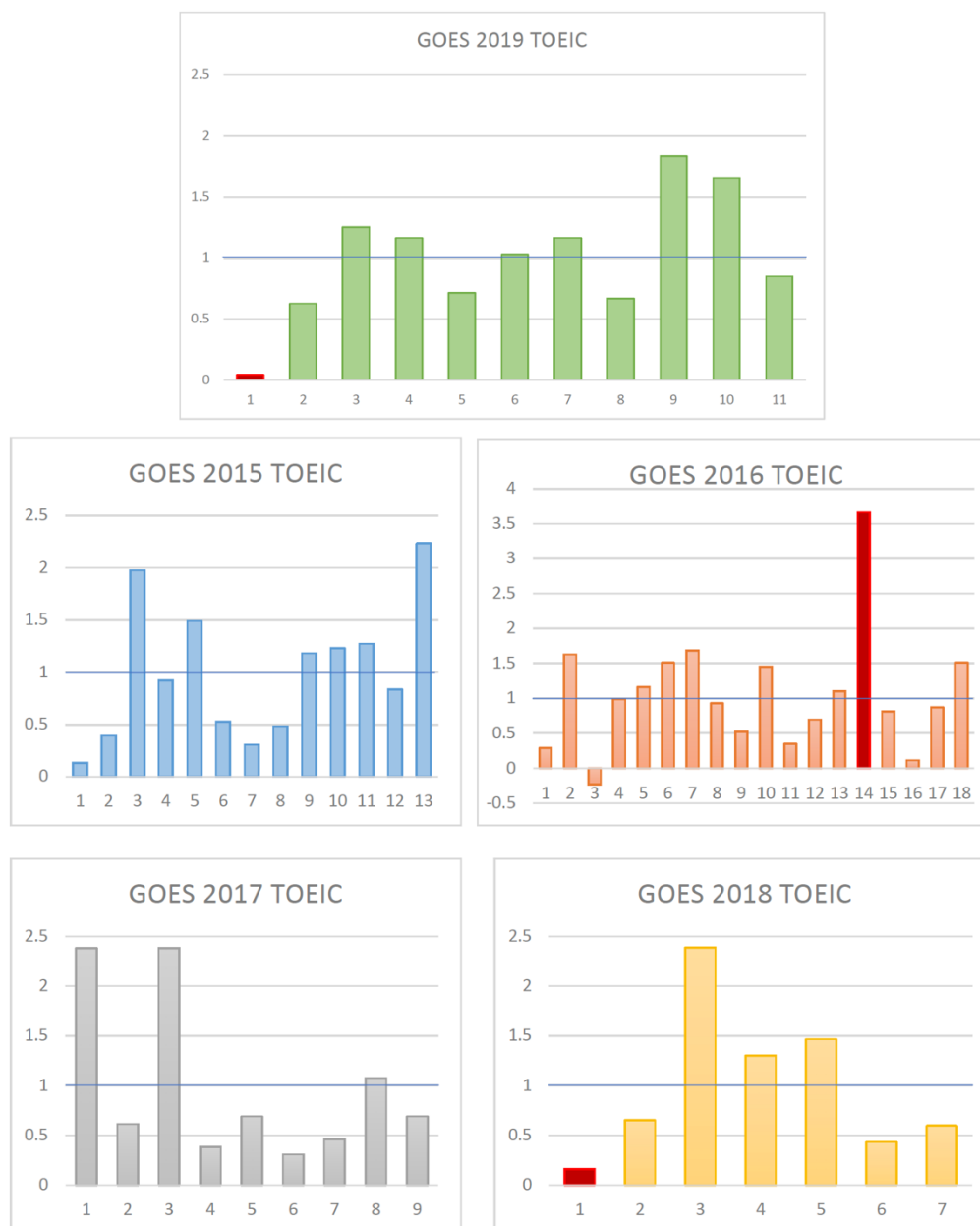
In order to compare TOEIC scores for the 2019 cohort, the margin of improvement for each cohort was calculated in the following way:

- First the point increase for each student was calculated by subtracting their post-program score from their pre-program score.
- Next, the average point increase was calculated for the whole cohort.
- The margin of improvement was calculated by dividing the individual point increase by the average point increase.

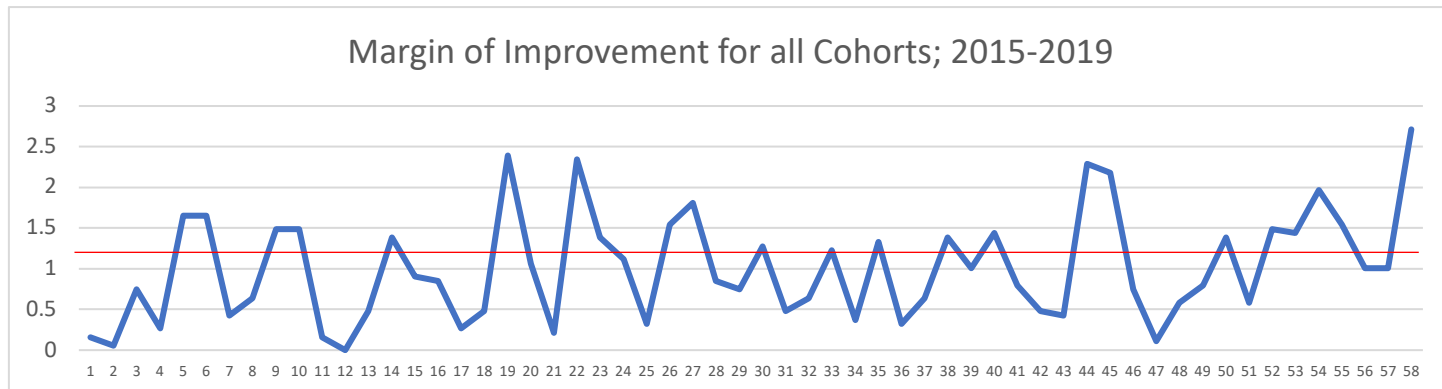
The formula used can be expressed as follows:

$$\frac{(\text{Individual post-program score} - \text{individual pre-program score})}{(\text{Average post-program score for cohort} - \text{Average pre-program score for cohort})} = \text{Margin of Improvement}$$

This calculation sets the average margin of improvement at 1, and result in the following graphs:



By isolating the margin of improvement (MI) in this way, differences in pre-program scores are ignored, however when all cohorts were combined and the same formula was used, it became apparent that there has been a great deal of variation in improvement for students whose pre-program score was within the middle two quartiles of the TOEIC range (TOEIC range 10 – 990; Q1= 745 – 990, Q2= 500 – 744, Q3= 255 – 499, Q4= 10 – 254.)



The chart above shows improvement margins in order from highest pre-program score to lowest pre-departure score. Students 1 & 2 had pre-program scores in the top quartile (Q1), and student 58 had a pre-program score in the lowest quartile (Q4). These are marked in red on the bar graphs at the beginning of this report. The Q1 students have the lowest margin of improvement by far (with the exception of student 3 in 2016 who was unwell on the day of the test and submitted an alternate assignment rather than re-taking the test). Conversely, the Q4 student had the highest margin of improvement by far. Although there is insufficient data for confirmation, it may be possible that students with pre-program scores in the Q1 range may find it difficult to make large gains in their language level during 3 months of study abroad, whereas those with pre-program scores in the Q4 range may soon see significant improvement. By looking at the uppermost tail of Q2 margins, and the lowermost tail of the Q3 margins, there is some suggestion that those with high pre-program scores see lower margins of improvement than students with low pre-program scores. This may be corroborated by the fact that one student in Q1, six students in Q2, yet only one student in Q3 (total 8/58) received a lower post-program test score than their pre-program score, even though they were able to improve their scores on a second test.

Returning to the first set of bar graphs, which are also ordered from highest pre-program score to lowest, we see that the 2019 cohort has the least variation in margin of improvement. With the exception of student 1, who studied in San Diego, all students studied at University of Western Australia Center for English Language Teaching (UWA CELT). In other years, students studied at a wider variety of language schools (2015 San Diego CA, San Jose CA; 2016 San Diego CA, San Jose CA, New York NY, Fargo ND; 2017 San Diego CA, San Jose CA, New York NY; 2018 San Diego CA, Moana HI, Perth WA Aus.) This may account for the variance in margins of improvement.

There are only 58 data points in this set, and the conditions under which students studied as well as their pre-program TOEIC levels, varied greatly. This makes it difficult to draw any conclusions about the efficacy of the GOES program in relation to English study, however, the fact that the majority of students make measurable gains in their TOEIC scores suggests that this short yet intensive type of study abroad program has some benefit.

15 室員感想文集

Uncertainty in 2020

As of this writing (March 2020) COVID19 now been declared a pandemic, due to its increasing global spread. Travel restrictions have been put in place to and from various countries. How this will affect planned overseas studies is unclear at this moment.

It will be winter in Australia when the Perth GOES program is scheduled to take place, though whether cooler temperatures will result in greater spread is unknown; at this time, Perth has reported very few cases, nor have any cases been reported in Kagoshima. There may be room for cautious optimism that the GOES Perth program may still be viable, although how attractive it will be to students is also uncertain.

The California GOES program may be more likely subject to cancellation, as political conditions in the US are currently exacerbating an already unpredictable situation. Flights between the US and Japan have already been curtailed. The US has issued a travel advisory for Americans traveling to Japan, and although there are currently no restrictions on Japanese visitors to the US, 27 countries have now implemented entry restrictions. Furthermore if the US situation worsens, it may not be advisable to send students there.

Should plans for 2020 GOES programs be severely disrupted, GDO staff may take the opportunity to explore ways for students to increase their global understanding and English language skills from within the country. This could potentially involve increased support for activities involving Japanese students and overseas students within the Graduate School of Science & Engineering, special non-credit seminars, and support for accessing online learning/exchange programs.

As the COVID19 situation progresses, GDO will continue to closely monitor it, and stay in touch with overseas program partners to determine the viability of 2020 programs. Our office will also consider what steps may be taken to provide useful alternative programming for graduate students should GOES 2020 programming be interrupted.

特任助教 Bo Causer

令和元年度を振り返って

今年度は大学院理工系イノベーション海外研修プログラムへ、計 11 名の学生が参加した。帰国後アンケートによる彼らの感想には「これまで持っていなかった価値観や、英語の必要性といった日本には学べないことを学ぶことができた」

「日本と違う文化や、初めての経験に触れ視野が広がると感じた」「異文化交流の楽しさを知った」などがあり、比較的海外経験が少ない（初めての海外渡航だったものもいる）学生にとって今回の研修が大変新鮮なものであったことがわかる。

【今回の留学を経て、長期の留学をしたいと思うか】という設問には、100%の全員が帰国後に「非常に思う」または「思う」と回答しており、研修前の 88%から意欲が増している。とはいえ、この感想が表しているのは 3 カ月の研修前後の自分の変化である。本研修が求めているのは、今後グローバル人材として彼らが成長していくことである。学生自身がこのことに気が付くのは難しく、また成長は数カ月や 1 年で調査、判断できるものではない。学生自身があの時留学に行ったことで自分が変わっていたのだと気が付くのは、10 年単位で先のことであろう。支援室設置から 5 年となるが、我々は将来のための種まきを続けているところだと言える。

グローバル人材育成を計画し、投資するのは容易ではない。しかし、これは鹿児島大学理工学研究科に求められていることであり、本支援室は 1 人でも多くの学生の将来のため、海外研修プログラムに限らず貢献できることを考え続ける必要がある。

そして、今年度も研修が無事実施できたことは研究科長をはじめ、研究科教員、事務職員の皆様のご協力のおかげと感謝し、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

特任専門員 成田矩子